

杉並ユネスコ協会会報

150号

2023年
12月1日

Suginami UNESCO Association News Letter

戦争は人の心の中で生まれるものであるから、
人の心の中に平和のとりでを築かなければならない

ユネスコ憲章前文より

- 心の中に平和の守りを固めよう
- すべての人間の尊厳を重んじよう
- 教育・科学・文化の発展に努めよう
- 民族間の疑惑と不信をのぞこう
- 世界を友愛と信頼のきずなで結ぼう



杉並ユネスコ協会

目次

ユネスコ運動の日.....	2	ユネスコ教室.....	6
科学教室／料理教室	4	中学生クラブ.....	7
全国大会／関東ブロック・ユネスコ活動研究会.....	5	サマーコンサート／ボラセン交流会／活動予定.....	8



ユネスコ運動の日
SDGsと原水爆のない未来



ユネスコ運動の日

夢の島から学ぶ SDGs バスツアー&第五福竜丸見学

9月26日(火) 第五福竜丸展示館、東京都環境局中防合同庁舎・廃棄物埋立処分場 見学

杉並ユネスコ協会では、平和に関する事業として、過去にもバスツアーを実施してきたが、2023年度は、「夢の島から学ぶ SDGs バスツアー&第五福竜丸見学」として、都立第五福竜丸展示館と東京都の廃棄物埋立処分場の見学をした。

朝8時30分、セッション杉並に31名全員集合。バスは予定時間より早くに出発。交通渋滞もなく、予定より30分早く第五福竜丸展示館に到着。ゆっくりと見学をすることができた。

第五福竜丸展示館は、2020年11月のユネスコ運動の日にも、バスツアーで訪れたことがあり、杉ユ協として2度目になる。また、2021年3月の杉ユ協創立70周年記念事業では、第五福竜丸を題材にした音楽朗読劇「くじらのこえ なみのこえ」の上演をセッション杉並ホールで行った。忘れてはいけないできごと、そして人々に継続して考えてもらいたい第五福竜丸事件(ビキニ事件)。今回も新たに知ったことも多く、充実した学びができた。

展示館では、市田真理学芸員から説明をしていただいた。第五福竜丸の被曝の様子は、話を聴いている私たちが第五福竜丸上に居るかのよう思える迫力ある説明だった。

1954年3月1日に、マーシャル諸島のビキニ環礁で行われた水爆実験の死の灰を浴びた第五福竜丸が、水爆実験とは知らず、身体不調のまま焼津港に着いたのは、3月14日だった。23名全員が焼けただれた顔をし、焼津協立病院で原爆症の疑いとの診断をされた。そのニュースは3月16日の読売新聞朝刊によって「邦人漁夫ビキニ原爆実験に遭遇 23名が原子病」という見出しで

報道された。その後全員治療を受けたが、1954年9月23日久保山愛吉さんが、全国から届いた願いもかなわず40歳で亡くなった。展示館の庭には、「原水爆の被害者はわたしを最後にしてほしい」という久保山さんの言葉を刻んだ石碑がある。また近くには、2021年3月に87歳で亡くなった大石又七さんの呼び掛けで作られた「マグロ塚」の記念碑も設置されている。

14歳で被曝した大石又七さんは、東京でクリーニング店を営んでいたが、30年間被曝を語ることなく沈黙を続けていた。差別や偏見による諸々の問題から、被曝を忘れてほしいと思っていた大石さん。ところが、和光中学の生徒から被曝体験談を依頼されて語り始めてからは、核被害の証言を700回以上行い、核廃絶を訴え続けた。そして目の見えない中学生のために、模型の第五福竜丸を作り学校に届け、その後も各地の平和資料館などに模型船を贈る活動が続けた。

第五福竜丸展示館設立の発端になったのが、1968年3月10日の朝日新聞朝刊の「声」欄に掲載された、夢の島にごみとして棄てられた第五福竜丸についての「沈めてよいか第五福竜丸」の投書だった。そこから第五福竜丸保存運動が始まって1976年に開館の運びとなる。

原子マグロが源となり、杉並区から始まった原水爆禁止署名運動と原水爆禁止世界大会、原水爆実験による被害を受けているマーシャル諸島の人々、第五福竜丸以外の被害を受けたたくさん漁船、それらビキニ事件関連の課題を、後世に伝える必要を痛感した第五福竜丸展示館だった。

市田さんの言葉——「第五福竜丸は、核なき未来に向かって航海中です。」(朝倉洋子)



ツアーの後半では、東京湾にある中央防波堤埋立処分場と廃棄物処理場を見学した。

ここは東京23区内で収集し焼却、破碎されたごみを埋め立てている、「ごみの最終の地」である。しかし東京2020オリンピックでは、ボート競技や馬術のクロスカントリーが行われたように、ごみの山だけのイメージではない。

埋立地は昭和に入ってから、①潮見→②夢の島→③若洲→④中央防波堤内側埋立地→⑤中央防波堤外側埋立処分場→⑥羽田空港→⑦新海面処分場へと変わってきた(右図)。現在は⑤中央防波堤外側処分場と⑦新海面処分場で最終処分が行われている。

中央防波堤内側埋立地にある東京都環境局の中防合同庁舎で「埋立処分場の今」の映像を見た後、東京都環境公社の方の説明を聞きながらバスで処分場を回った。

可燃ごみは各清掃工場で焼却し大半が資源化される。不燃ごみ、粗大ごみは中間施設(中央防波堤内側埋立地)で小さく砕かれた後、鉄やアルミニウムなどの資源は回収され減量化して埋め立てられる。粗大ごみを小さくしている様子や細かに切り刻まれた畳の山を見た。粗大ごみは、運ばれたその日のうちにできる限り埋立処分がなされているという。

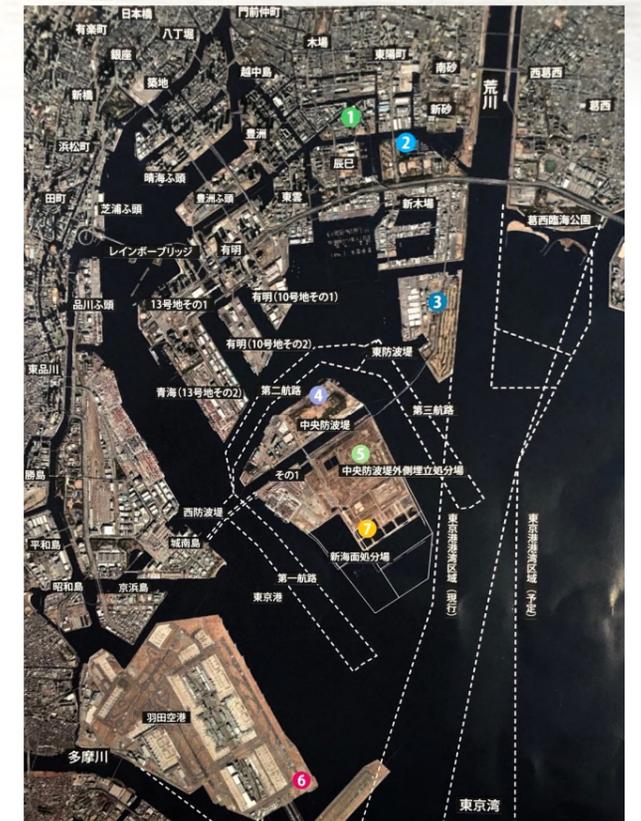
ごみの埋立は、ごみと土を交互に積み重ねていくサンドイッチ工法により行われる。廃棄物が飛び散ったり、悪臭がしたり、害虫が発生するのを防ぐためである。

ところどころに見える茶色のパイプは、埋め立てた廃棄物から発生するメタンガスのガス抜きをするパイプである。このメタンガスは処分場の電力としても利用されている。

また処分場に降った雨はごみ層を通り浸出するが、これらは集水池に集められ、調整池で水量や水質を調整して排水処理場に送られ浄化される。

バスを降りて見学した新海面処分場にある見晴らし広場からは、間近に羽田空港、また遠くには日本一高い高層ビル麻布台ヒルズ森JPタワーや、東京ディズニーリゾートが黒くかすんで見えた。

近年はごみの資源化が進み埋立の量は減ってきているが、処分場には限りがあり今後50年ほどで処理量の限界に達すると言われている。



SDGsの目標12「つくる責任、つかう責任」は、私たちが生産・消費・廃棄という活動を通して使いすぎている地球の資源を大切にするために掲げられたスローガンである。

私たちの生活の中から出るごみの量を減らし、資源として大切に使う暮らし方のキーワードは、リデュース(ごみを減らす)、リユース(繰り返し使う)、リサイクル(再資源化)の「3R」。レジ袋は使わないでマイバッグを持参する、マイ容器やマイ箸を使うなど、なるべくごみを増やさない行動をとっていくことが必要である。

かけがえのない地球環境を次の世代に引き継ぐためには、限りある埋立処分場を一日でも長く使用できるようにするための努力が欠かせない。

毎日の生活から出るごみを減らせるかどうかは、私たち一人ひとりの心の持ちよう行動にかかっていることを改めて感じた今回の見学ツアーだった。(大野克子)



ユネスコ 科学教室 五感でさぐる夏の役立ち草と毒草

7月30日(日) 高井戸地域区民センター

2023年夏の科学教室は、池村国弘先生に「夏の役立ち草と毒草」について紹介していただきました。東京都薬用植物園にお勤めの池村先生は、勤務以外の日は「池兄」の名前で「植物案内人」として、多くの人たちを植物の世界に導き、植物大好きな人をたくさん生み出しています。

講座では、まず座学で「身近な植物」に関する知識や使い方について講義したあと、高井戸地域区民センター近くの川沿いの道端で、植物観察をしました。参加者の皆さんも、普段見慣れた植物に改めて注目しながら、熱心に先生の解説を聞いていました。(村治笙子)



第79回日本ユネスコ運動全国大会 in 富士吉田

9月9日(土) ふじさんホール(山梨県)

全国大会は、中部東ブロック・ユネスコ活動研究会と同時開催されました。迎えてくれたのは「紅富士太鼓」の力強い演奏と、県立吉田高校音楽部の合奏・合唱の楽しい歌声でした。

開会式ではユネスコの歌斉唱、UNESCO 憲章(前文)の朗読、そして主催者と来賓の挨拶があり、続いて牧野健太郎氏による「富士山と浮世絵〜お江戸にタイムスリップ、デジタルが明かした江戸庶民の文化」の記念講演が行われました。

これが面白い!! なんとデジタル化で浮世絵を切り取ってみると、今まで見逃していた作者の意図がそこから見える。江戸庶民の生活が覗けたことはとても新鮮で、大変興味深かったです。

その後のパネルディスカッションでは、「ユネスコの今と未来〜私たちはこう考える」をテーマに、愛知県・山梨県の高中生4人が、ユネスコに関わり仲間の輪を広げてきたことを生きいきと話し、学校での取り組みについて発表しました。ユネスコの未来をつくる若者たちの発表に光を感じました。

交流会では、最後に沢山のブドウが出てきました。山梨県連の計らいだそうです。次の日は富士山も顔を出して、山梨ならではのおもてなしを感じる大会でした。(佐藤直子)



ユネスコ 料理教室 料理からミャンマーに思いを馳せる

10月21日(土) セシオン杉並 料理室

2021年のクーデター以後、国軍と民主派勢力などとの戦闘が続き、今なお危機的状況にあるミャンマーの人々の暮らしに思いを馳せようと、この料理教室を企画しました。レイレイウーさんとタンタンミンさんを講師に招き、ミャンマーの典型的な家庭料理を教えてくださいました。

メニューは、①ココナッツご飯、②鶏肉カレー(ヒン)、③エビチリ、④チンポウン(酸っぱい葉っぱ)のスープ、⑤干しエビのふりかけ、⑥きゅうりのサラダ、⑦スノープリン。7品で盛り沢山でした。どの料理もとても美味でした。私たちにはあまり馴染みのないウコン、マサラ、ナンプレーなどの調味料がおいしさの秘訣でしょうか。ミャンマー独特のチンポウンのスープは、お酢を入れないのに程よい酸っぱさがあり、不思議な味のスープでした。

料理実習後は、4月半ばの新年水かけ祭り(ティンジャン)に舞う伝統的な踊りを、美しい衣装を纏って披露してくださいました。またフェイス・ペインティングのような「タナカ」の実演もしてくださいました。タナカの木片を板状の石に水滴を加えながらこすると白っぽい液になり、それを肌に塗ります。日焼け止めや美肌の効果があるそうです。

ミャンマー料理は初めてという参加者が多く、終了後のアンケートには、講師たちが丁寧に教えてくれたこと、ミャンマーの料理や伝統文化、日常生活に触れることができ興味深かったという声が多く寄せられました。(水上あつ子)



大会テーマ

Together for Future 国や文化、あらゆる違いを越えて心に平和の岩を築こう!



関東ブロック・ユネスコ活動研究会 in 東京

9月3日(日) 青山学院大学

前回の東京大会から7年目、1年半をかけて実行委員として関わってきた関ブロが開催されました。

午前の「関東ブロック・ユネスコ青年活動研究会」では、55名の参加者(若者たち)が有意義な話し合いを行いました。午後は、ウエルカム映像(各ユ協の紹介ビデオ)が流れた後、開会式が行われ、都ユ連会長・日ユ協連会長の挨拶、文部科学省・都教育委員会・渋谷区長・青山学院院長の来賓挨拶がありました。

特別講演はコシノジュンコ氏による講演「ファッションの持つエネルギー」。受付の仕事を行っていたため聴講は無理かと思いましたが、受付にTVが設置され、しっかりと講師の話を聴くことができました。コシノ氏はユネスコ運動にも大変協力をしてくださっている方です。3・11の震災後は被災地支援を行っていたことを知り、講演も心温まるものでした。

講演後は分科会が行われ、「異文化理解・国際交流」「世界遺産・未来遺産」「科学・環境、ユネスコスクール」の3分科会で、各ユ協から大変参考になる報告を聴くことができました。

大会後の交流会は7年前と同じ旧青学会館で開かれ、119名の参加者で大いに賑わいました。実行委員として関わることができ、何よりユ協同士の横のつながりが広がったことで、私にとっても大きな収穫のある関ブロでした。(佐藤直子)

第60回 ユネスコ教室

UNESCO International Cultural Exchange Program in Suginami

8月11日(金・祝)～14日(月)
セシオン杉並/JICA 地球ひろば
参加者 中学生12名、外国人6名

混迷する世界において、相互理解のあるべき姿を求めつつける



- 8月11日 開級式、ユネスコ紹介、ゲーム大会
 - 8月12日 JICA 訪問(青年海外協力隊の講話、展示コーナー見学)
 - 8月13日 国際理解ワークショップ(紙芝居の創作)
 - 8月14日 スポーツ大会、閉級式
- 外国人の国籍
ネパール、オーストラリア、アンティグア・バーブーダ、チリ



社会に目を向けると、未知の脅威がひと段落したかと思えば、一気に世界情勢が不安定になりました。真の意味での「相互理解」とは、いったい何なのか。地球に暮らす誰もが、未来について考える岐路に立たされています。

ユネスコ活動の未来もまた、例外ではありません。コロナ禍による中止を挟みながらも、ユネスコ教室は今年、第60回の節目を迎えました。民間ユネスコが運営主体となって、ここまで長年継続している事業は、全国的に見てもめずらしいでしょう。これからの杉並ユネスコ協会を考えるうえでも、ぜひひとりでも多くの皆様から、「ユネスコ教室のあるべき姿」のご意見をいただければ幸いです。(ユネスコ教室実行委員長・城戸譲)

2023年度の「ユネスコ教室」は昨年に引き続き、コロナ禍の余波を鑑みて、宿泊なしで実施しました。リニューアル工事をしていたセシオン杉並が、ちょうど8月から開館したことにより、徐々に慣れ親しんだ施設で開催できました。

プログラムの大枠は、前年度の高円寺学園でのものと共通でしたが、セシオンでは、新たに「講座室」として生まれ変わった旧視聴覚室と、地下体育室の2会場を活用し、座学からダンス・歌まで、幅広い企画を行うことができました。

1日目の開級式では、ゲーム大会に加えて、青年部みずからスライド資料を作ったユネスコ紹介が行われました。ユネスコそのものの概要に加え、杉並独自の活動にも触れることで、参加者のみならず、青年部員の理解も深まったのではないのでしょうか。

2日目には市ヶ谷の「JICA 地球ひろば」を訪問し、海外協力隊の講話と、展示コーナーでの学習を行いました。そこで得た知見は、3日目のプレゼンテーション創作で、紙芝居による発表づくりに生かされます。今年の

創作もSDGsをテーマに行い、「貧困」や「食品ロス」など国際的な社会課題について、英語と日本語をまじえたストーリー仕立てで、わかりやすく紹介していました。

最終日には、スポーツ大会で体を動かしつつ、連日練習してきた歌とダンスで盛り上がります。外国人や、その家族による即興ライブも行われ、宿泊学習のある年度より小規模ながら、アットホームな雰囲気に包まれました。

終了後の運営スタッフへのアンケートでも、「満足感があった」「中学生と外国人が溶け込めていた」といった好意的な声が上がりました。期間中には、青年部や理事だけでなく、青年部の卒業生らも顔を出し、杉並ユネスコ内での世代間交流も深まったと感じています。

例年同様に杉並区教育委員会の共催とあって、運営にあたっては社会教育センターの皆様、とくに多大なご尽力をたまわりました。新たな施設で、使い勝手ははっきりしないなかでも、大きな混乱が起きなかったのは、関係各所のご理解があってこそです。改めまして、ありがとうございます。

ユネスコ中学生クラブ

International Communication and Global Study

September October November



報告

杉並ユネスコ合唱団 サマーコンサート参加

2023年8月19日(土) セシオン杉並ホール

杉並区コーラス連盟の第43回サマーコンサートが開催されました。会場は改修が終わって再開したばかりのセシオン杉並で、杉並ユネスコ合唱団も参加しました。曲目は「切手のないおくりもの」「いのちの歌」「大地讃頌」です。指揮者の小澤 純先生、伴奏者の増澤明希子さんには今回も大変お世話になりました。今後は主に、やはり改修後間もない阿佐谷地域区民センターで練習予定ですので、皆様ぜひご参加ください(練習日は右下に掲載)。



報告

杉並ボランティアセンター交流会

2023年10月1日(日) フェニックス杉並

毎年、杉並区内のボランティア・地域活動団体が集まり、杉並ボランティアセンター主催の「ボラセン交流会」が開催されています。今年も杉並ユネスコ協会は参加し、映像による団体PRを行うとともに、他団体と交流を深めました。1つの団体では解決できない問題が、複数の団体が協力することで解決できる場合があります。また、まったく異なる分野の活動から思いがけないヒントを得る場合もあります。横のつながりの重要性を実感する、貴重な機会となりました。



編集後記

「地球沸騰化」とも表現された今夏の厳しい暑さ、世界各地の異常気象、そしてウクライナやガザにおける紛争。私たちはもう無関心ではいられません。まずは関心の輪を広げること。それが「平和のとりで」への第一歩です。(岩野智)

「知って欲しい！」世界へと発信される悲痛な叫びを、この数年間で幾度耳にしたことでしょうか。人類が同じことを繰り返す中でも、現代は当事者の声が即時に届く情報社会。今、改めて歴史を振り返ると共に、人々の声に耳を傾けることの意義を痛感します。私たちは決して無力ではありません。(西野裕代)

募集

ユネスコのつどい SDGs 講演会 美しく豊かな海を 未来に届けるために

2024年2月18日(日) 13:30~15:30
セシオン杉並 講座室



プラスチックごみをはじめとする海洋汚染の問題は深刻さを増しています。国際社会や私たちにできることは何か、一緒に考えてみませんか。

- 講師 道田 豊氏
東京大学大気海洋研究所教授
ユネスコ政府間海洋学委員会議長
 - 対象 区内在住・在勤・在学の方ほか
 - 定員 60名(先着順)
 - 参加費 無料
 - 申込 Eメール、往復はがき、またはFAXにて
2024年1月31日(水)必着
- ※詳細は「広報すぎなみ」1月15日号をご覧ください。

お願い

書きそんじハガキ回収キャンペーン

2024年1月15日(月)~3月20日(水・祝)
杉並区内 各公共施設

世界各地の学校に通えない人々のために、書きそんじハガキの回収を通じた寄付活動を行っています(日本ユネスコ協会連盟「世界寺子屋運動」)。上記の期間には、杉並区役所、区内図書館、地域区民センター等で回収ボックスを設置しています。また事務局(下記)では、郵送にて随時受け付けています。ぜひお手元の不要なハガキをご寄付ください。

活動予定

12月 December

- 1日(金) 理事会
- 13日(水) 平和のためのポスター
コンクール表彰式
- 16日(土) 中学生クラブ
(イヤーエンドパーティ)
- 26日(火)~ 青年部 南相馬スタディ
ツアー
- 28日(木)

2024年1月 January

- 12日(金) 理事会
- 13日(土) 中学生クラブ
(英会話と日本文化)
- 27日(土) 杉並ユネスコ協会
新年会(杉並会館)

2月 February

- 2日(金) 理事会
- 10日(土) 中学生クラブ
(英会話と国際理解)
- 18日(日) ユネスコのつどい講演会
「美しく豊かな海を未来
に届けるために」

杉並ユネスコ合唱団練習 ※印は予定

- 12月14日(木) 1月11日(木)
- 1月25日(木) 2月8日(木)※
- 2月22日(木)※

杉並ユネスコ協会会報 150号 2023年12月1日発行

発行者 杉並ユネスコ協会 会長 佐藤直子

事務局 〒167-0043 東京都杉並区上荻 2-34-10 山田正方

TEL 090-6105-6633 FAX 03-3399-0339 E-mail suginami@unesco.or.jp

編集 杉並ユネスコ協会広報担当

口座 ゆうちょ銀行/記号10040 番号18974381 (ゆうちょ銀行間での振込)

店名〇〇八(ゼロゼロハチ) 店番008 番号1897438 (他行からの振込)

みずほ銀行/荻窪支店 普通口座 番号4047995

ホームページ <http://suginami-unesco.org/>